

岩手県

体育授業優秀教員名 菅原 純也 (すがわら じゅんや)

(満 43 歳 昭和 51 年 6 月 18 日生)

1. 推薦の理由

平成 13 年度に釜石市立鶴住居小学校教諭として着任以来、児童の意欲を引き出すとともに、成果の上がる体育授業の在り方について、子供の姿を大切に、実践的な研究を積み重ねながら授業づくりに取り組んできた。

平成 19 年度には岩手大学教育学部附属小学校に異動し、隔年で開催される学校公開研究会において体育授業を公開し、県内はもとより県外にもその研究成果を発信してきた。今年度は研究主任としてその手腕を発揮している。また、「小学校体育科教育法」の講義では、学部授業者を務めてきた。さらに、大学との連携事業により、県内の希望する小学校に出向いて授業を提供し、県内関係小学校における校内研の充実を図ってきた。平成 22 年度からは、大学との連携事業の成果を実践研究論文にまとめ大学のホームページにて発信したり、県内の先生方と共に実技事例集の編纂や体づくり運動のデジタル教材なども独自に作成したりするなど、地域への貢献も果たしてきた。

平成元年から開催されてきた盛岡地区の有志による体育学習会では、講師を務めるとともに世話人も長きに渡り引き受け、10 年前からは県内各地に発足した体育学習会を取りまとめ、岩手体育学習会集会を企画してきた。

このように、これまで岩手の体育研究を推進し体育指導の充実・発展に寄与するとともに、後進の育成にも尽力してきたことから、体育授業優秀教員に推薦する。

2. 被推薦者の「体育授業」の特徴、指導効果、その成果の汎用性、成果を証明する資料等

平成 28 年 6 月に開催した学校公開研究会では、『「創発の学び」を実現する教育課程の創造(第一次)』を受け、「集団とのかかわりながら、身に付けた知識や感覚を使って、運動のポイントを発見したり、集団として動きやルールを工夫したりする学び」を体育科における創発ととらえ授業提案を行った。「ゲームを通して明らかになった必要感のある課題の設定」、「思考を可視化し、課題を具体化させるためのワークシートの活用」、「フリーズゲーム」の 3 点を創発の手立てとして位置付け、

ゴール型ゲーム(タグラグビー)の指導に当たった。「児童による形成的授業評価」によるアンケートでは、概ね授業を追うごとに評価が上がり、単元最後の授業においては、総合評価 2.95(成果:2.92、意欲・関心:2.95、学び方:2.95、協力:2.97)であり、多くの成果を上げることができた。

平成 30 年 6 月に開催された学校公開研究会では、継続研究(第三次)を受け、「遠くに投げることのできる動きとできない動きを比較させ、ポイントを考えさせる。跳躍系に帰着し、動作について着目する所と動かし方などを想起させる」ことを創発の手立てとして位置付け、陸上運動における投の運動の指導に当たった。児童の投能力を高めるとともに、加えて指導することができる投の運動の指導の在り方について、提案することができた。

今年度は、「多様な関わりの中で、自分らしく運動する子供の育成ー体育的表現力を発揮する学びを通してー」を体育科の研究主題とし、知識と技能の往還による技能の習得を目指した器械運動(マット運動)の指導に取り組み、新学習指導要領の趣旨を踏まえた先進的な研究実践に取り組んでいる。

3. 公的な大会・研修会等で発表した授業実践や講習会の講師を務めた講習内容等の概要

岩手県盛岡市で行われた平成 20 年度第 47 回全国学校体育研究大会において、第 5 分科会テーマ「共に学び達成感を感じながら進んで運動に取り組む子どもをめざしてー指導と評価の一体化した授業づくりを通してー」を受け、ゲーム(ハンドボール)の授業を公開し、その成果を全国に発信した。

神奈川県横浜市で行われた平成 22 年度子どもの体力向上指導者養成研修において「ボール運動」に参加し、その後、県内で行われた研修会で講師を務めた。

4. 勤続年数 19 年

5. 教職の略歴

平成 13 年 釜石市立鶴住居小学校教諭

平成 16 年 釜石市立栗林小学校教諭

平成 19 年 岩手大学教育学部附属小学校教諭